



○「AED」

AEDがどこにあるか知っていますか？ 松江東高校では、正面玄関前（右写真）、体育館1階正面入り口外、2階渡り廊下東側の3カ所に設置してあります。もし自宅などで必要となったらどこが一番近いのか・・・



高円宮憲仁親王（たかまどのみや のりひとしんのう）がスカッシュの練習中に倒れられ亡くなられてから2年後の2004年以降、自動体外式除細動器

（AED）の使用が認められ広く普及しました。AEDは「Automated External Defibrillator」の略語です。「除細動」とは、心臓がけいれん（細動）した状態を「取り除く」ことを指しますが、AEDは心臓に電気ショックを与えることで除細動を行うものです。

教職員はもちろん、生徒のみなさんも救命救急講習などでその使い方をなつたことはあると思います。ただ実際に使ったことがある人は、医療従事者でなければほとんどないと思います。

5年ほど前に実際に使うべきケースに遭遇しました。公園で目の前を歩いていた人が突然膝から崩れ落ちたのです。意識はなく、呼吸も確認できない状況でした。心臓発作だと思い、すぐに心臓マッサージを始めました。近くにいた人に救急車の手配をお願いしたのですが、「救急車は何番でしたか？」という質問に、すぐに「119です」と答えられないほど私も周囲の人も気が動転している状況でした。財布（今はスマホケース）にAEDが必要になるようなケースの第一発見者となった場合の対応をまとめたカードを入れているのですが完全に失念していました。胸骨圧迫の強さや早さも思い出せないまま心臓マッサージを交代しながらし続けました。町外れの公園のため近くにAEDはなかったのですが、誰かに探しに行ってもらうような考えも、そもそもこうした場合にはAEDが必要であるという考えもすぐに浮かばず、ひたすら心臓マッサージを続ける状況でした。119番通話をつなげたまま指示をもらいながらの対応でしたが、状況をうまく伝えられず、また今思えばスピーカーホンにすれば両手が空いたのに、その時は肩でスマホを押さえながら、あるいは近くの人に電話を代わってもらい指示を伝えてもらうような状況でした。そのため対応は十分でなかったと思います。救急車が到着するまでの時間がとてつもなく長く感じたことを覚えています。結果的にその方の命は助かりましたが、命の前では人は冷静さを失いかねない状況になりうると感じた出来事でした。

講習と実際とはまったく緊張感が違います。命のかかった場面ではなおさらです。だからこそ講習をいかに真剣に受けているかが重要です。防災訓練なども定期的に学校で行います。行動や判断が冷静に適確に行えるよう、講習や訓練の大事さをあらためて感じた出来事でした。